

## 良き思い出に変わるまで

吉井（高野）美和子

旅の予 高野美和子

千原早（高野）美

地理学教室50周年おめでとうございます。

はじめて地理学教室の集まりに出席したのは2回生の春、今から11年前になります。修士の2年間もあわせると、それから5年間、夏と秋の巡検をはじめ様々な行事を体験することができました。その後も高校で地理を教える機会に恵まれたり、大学院に聴講生として参加したり、様々な形で地理学とは縁がありました。今ではこれらは皆、良い思い出となっており、地理学（教室）を選択して良かったと思っております。しかしこの選択をプラスに考えるようになるまで長い時間がかかりました。

もともと方向オンチであり、自ら計画を立てて旅行したこともなかった私にとって、地理学を専攻したことは当時決して正しい選択だったとは思えませんでした。気軽に選んでしまったと長い間後悔していたというのが正直なところです。『人は「

苦手なものを専門』する』という法則があるそうですが、まさにそれを身をもって経験したわけです。

まず乗り物に全く興味がなかったため、電車の乗り継ぎが失敗しないか、方向オンチゆえ迷子にならないか、地理的知識が少ない等々、これらが常に心配事としてつきまとっていました。修論を書くために1人で長野や愛媛へ出かけて調査をしてくることは、私にとっては、お金を持たずに外国へ飛び出してゆくような、そんな恐ろしいスリリングな冒険に等しいものがあつたのです。

しかしいつからか気軽な1人旅を楽しめるようになり、「旅行は1人でするのが1番面白い」と思えるようにまでなりました。どうやらこの頃から地理学に対する気持ちも変わっていったようです。多分、少し自立できるようになって物事をプラスにみることができるようになったのが理由の1つといえそうです。自ら進んだ計画を立てた1人旅でみた、海に沈む夕日は本当に心から美しいと思えるものでした。

不適応、不遇、不満、不幸といったものの多くは、各個人の外側の状況ではなく、内側の問題に原因があるのではと、つくづく考えさせられました。「不得手な分野を選んてしまった」のではなく、「選んだ分野が得意になった」と言えるようになればと思っております。

1人旅をやっと楽しめるようになってしばらくして、現在の伴侶に出会い、今年結婚致しました。主婦となった今では、服やカバンを買うことよりも旅行に行くためにせせせと節約をこころがけております。これからも色々な所へ旅行へ出かけて、思い出をたくさんつくりたいです。

それから修論のテーマである水引（みずひき）もこのところ長らく手つかずのままですが、ぼちぼち気長に深めてゆきたいと考えております。

今では地理学（教室）を選んだことを、良い選択であったと感謝しております。お世話になりました先生方、皆様、ありがとうございました。

今後も市立大学地理学教室が発展することを祈っております。

（平成3年卒業・平成5年修了）

